

2020年度研究プロジェクト報告

ことばのカーキリスト教の視点から

<プロジェクトメンバー>

打樋 啓史（代表、センター長、社会学部教授）

加納 和寛（センター副長、神学部准教授）

橋本 祐樹（主任研究員、神学部助教）

梶原 直美（主任研究員、教育学部教授）

赤江 達也（社会学部教授）

Timothy O. Benedict（社会学部助教）

山 泰幸（人間福祉学部教授）

2019年度から始められ、2年目を迎えた本プロジェクトは、本質的に「ことばの宗教」であるキリスト教において、「神のことば」「神に関わることば」がどのように理解されてきたかを探ることを目的として進められてきた。それらの言葉は、どのような文脈でどう語られたり記されたりしてきたのか。そのような言葉はコミュニケーションにおいてどのような役割を果たし、影響を与えてきたのか。これらの問いについて学際的共同研究を行ない、現代における「ことばをめぐる諸問題」にキリスト教の視点から何を発信できるかを探求してきたのである。

2019年度には5回の研究会を開催し、研究員による、また学外からのゲストスピーカーによる研究報告がなされてきたが、2020年度はコロナウイルス感染症拡大の影響を受け、残念ながら、予定されていた研究会の多くを中止とせざるを得なかった。Zoomでの研究会開催も検討したが、コロナの影響下で研究員の教育業務負担が大幅に増大したこと、また学外スピーカーによる研究会は対面

での実施が望ましかったことなどにより、研究報告のための会を開催することはしなかった。しかし、各研究員による研究は順調に進められ、10月23日（金）に各自の研究成果と今後の展望について簡潔に報告するという形での研究会を開催した。

本研究プロジェクトは、2021年度からの2年間もさらに継続されることになったので、2021年度には、2020年度中に蓄積された各自の研究成果を報告する研究会、また2020年度に予定されていたがキャンセルとなったゲストスピーカーを招いての研究会を開催し、2022年度中にはその成果物を出版する予定である。

（打樋 啓史・プロジェクト代表）